

2016年ユーロバイク展報告

(一財)自転車産業振興協会(自振協)は、日本の自転車関連産業の貿易促進のため、日本企業の国際自転車展示会への出展支援を行っており、2016年ユーロバイク展に自振協による共同出展ブースを設け日本企業8社の出展を支援した。これに伴い同展概要を報告する。

1. 展示会概要

本年、第25回目の節目となる自転車展示会、2016年ユーロバイク展(EUROBIKE2016)は、ドイツ南端のフリードリッヒスハーフェン見本市会場にて、2016年8月31日(水)～9月4日(日)の5日間にわたり開催された。会期中は好天に恵まれたが、ビジネス関係の来場者数は42,720人と前年比6.9%減となり来場者は2年続けて減少した。出展社数は前年同様の1,350社であり、会期中は前年同様1,766人の取材陣が訪れた。今年は2日間に拡大した一般公開日「Festival Days」には34,400人の一般来場者が集った。



会場の様子(左:ホールA1、右:ホールB5)

主催: メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地: ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期: 2016年8月31日(水)～9月4日(日)

(8/31-9/2 ビジネスデー、9/3、4 一般公開)

展示会場及び面積: 14ホール、100,000㎡(昨年同様 ※A3,A4 仮設、屋外分は除く)

入場者数: ビジネス来場者 106カ国 42,720人(昨年 103カ国 45,870人)

一般来場者 34,400人(昨年 20,730人)

出展社数: 1,350社(昨年 53カ国 1,350社)

2. ますます増える蛍光色

ここ数年、サイクル用の衣料品類や MTB、BMX 等のスポーツ車等を中心に、ネオンカラー（蛍光色）を取り入れた商品が増えてきたが、今年も各ブランドのブースには鮮やかな蛍光色の商品が展示されていた。初めは艶消しの黒のフレームに蛍光色を一部取り入れたデザインが多かったが、最近では蛍光一色の派手なフレームも増え、また、蛍光色の中でも緑や青が比較的多かったが、蛍光オレンジのフレームも目立つようになってきた。蛍光色フレームは MTB や BMX 等からロードバイク等のスポーツ車全般、更には EPAC、トレッキング車/シティ車等の他車種にも広がりつつある。



今年も蛍光色が目立った

数年前、台湾最大手のジャイアントが女性向けブランド「Liv」を立ち上げて以来、他社のブースでもピンクや水色等のパステルカラーの女性向けスポーツ車等が見られるようになった。また、サイクル用衣類等においても、女性が好むデザインやカラーリングを取り入れた物が多くなってきている。従来から同一モデル内で、ダイヤモンド型が男性用、スタガード型やU型を女性用等、フレーム形状による分け方は今までも見られた。今後、女性専用のサイクリング商品が増加するのか注目したい。

ここ数年で広がりを見せたファットバイク (Fat bikes) は、昨年より展示数が増加している印象はなかったが、最近の E-MTB の過熱を受け、電動タイプのファットバイクもいくつか見

られた。因みに5、6年前にはシングルギア車がブームとなり、各社ブースで展示する様子が見られたものの、今やほとんど見かけなくなった。ファットバイクも一時的なブームでいずれ消え去るのか、一つの車種として定着するのか正念場を迎えており、今後の動向に注視したい。



女性向け商品（上段：スポーツ車、下段：ウェア類）



電動ファットバイクも出現

3. 注目を浴びる E-MTB

本年のユーロバイク展においても、電動アシスト自転車 (EPAC) 等とその関連部品が同展の目玉であった。同展オフィシャルカタログによると、本年から「Pedelects」と「S-Pedelects」に分類が変わり、E-bikes と S-Pedelects を同じカテゴリーとして単純比較はできないが、2016 年の EPAC 出展者数は 109 社と前年比 30% 増となった。更に、EPAC の車種別でみると、MTB タイプの EPAC (E-MTB) は 43 社、トレッキング車が 50 社及びシティ車が 64 社の出展者を数えた。その中でも E-MTB の新商品が各ブースで目立ち、欧州自転車業界で今もっとも注目が高い車種のひとつである。一般公開日には E-MTB を多く展示しているブランドのブースには多くの人々が詰めかけ、消費者からの関心の高さも伺えた。



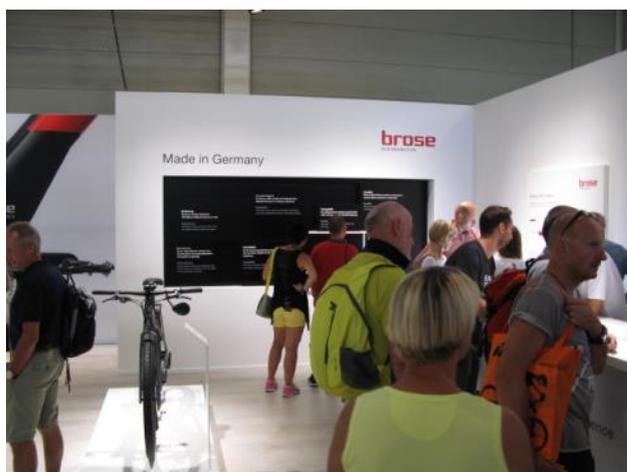
一般客で溢れる E-MTB 展示スペース (ハイバイク)

図表 1: Pedelects (電動アシスト自転車) 等の出展者数推移 (単位: 社)

出展車種	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
E-bikes	30	47	76	110	101	156	158	176	195	-
Pedelects	15	23	30	52	55	88	82	83	84	109
S-Pedelects										23

※2016 年より「Pedelects」と「S-Pedelects」に分類変更

電動アシスト自転車等のドライブユニットについては、依然、ボッシュ (BOSCH) が欧州市場で大きなシェアを占め、現在、車体中央部にモーターを配置するタイプが完全に主流となった。ホール A6 には、BOSCH をはじめパナソニックサイクルテック (Panasonic)、サンスター技研 (SUNSTAR) 及び日本電産コパル (Nidec) 等の日系メーカーに加え、Brose、TranX、BionX、Ansmann、BAFANG、GO Swiss 及び PENDIX 等、欧州市場を目指して出展していた。また、ホール A1 ではシマノが現在加熱する E-MTB に対応したスポーツ車用の「STEPS」を出展し、当協会ブースには既に数社の E-MTB に採用されているヤマハが参加した。なお、今回、展示会場の各社 EPAC 展示品の状況を見た限りでは、独系ユニット Brose の健闘が光る印象を受けた。近年の E-MTB 人気の高まりを受け、各社は中央型の電動ユニットのモデルを中心に据え、より容量大きいバッテリーを用意する等、EPAC でも車種別にユニットを用意する等、品揃えも多様化しつつあり、欧州市場における電動ドライブユニットのシェア争いはまだ続いている。



注目を集めた電動ドライブユニット（左：BOSCH、右：BROSE）

4. Festival Days

毎年、展示会の前日に開催されていたデモデー（DEMODOY）は、今年、内容を刷新し、展示会期中に取り込まれる形となった。一般公開日の2日間、Festival Daysには一般消費者も各社の自転車を試乗できる機会が与えられた。ホールB1～B5周辺の屋外にある出展者用の駐車場だった場所に、試乗車を並べた屋外ブースが並び、来場者は希望するブランドのテントで申し込みの上、試乗することができた。一般公開日は多くの消費者が詰めかけ、人気ブランドのテントの前には順番待ちの列も見られた。

また、Festival Daysでは、自転車整備デモ、女性向け走行会、幼児・子供車コーナーなど、一般参加者向けの各種プログラムも用意され、更にツーリングや旅行に関するインフォメーションブースが一般公開日に追加設置される等、ユーザー参加を増やそうとする主催者の努力の姿勢も伺えた。

しかしながら、かつて前日の1日開催のみで済んだDEMODOYは、今回は各ホールに隣接する屋外に各社のテントが置かれ、結果的に会期5日間を通じて試乗車を提供した。5日間の長期にわたり、ホール展示と併せて屋外テントにも自転車と人員を配置した各出展社の負担の大きさは想像に難くない。



Festivak Days 時の試乗会の様子



自転車整備デモの様子



幼児車試乗コース

5. JBPI 共同出展ブース

本年 14 回目の出展となる自転車産業振興協会 (JBPI) ブースは、本年は 3 日間のビジネスデーのみの出展となり、展示ホールは B2 から A1 に移り、面積は 80 m² に拡大した。今回は下記図表のとおり、(株)スギノエンジニアリング (SUGINO)、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、(株)ヨシガイ (DIA-COMPE)、(株)本所工研 (HONJO)、(株)ハチスカ (Hachisuka)、(株)ASK TRADING (BOMA)、(株)グロータック (GROWTAC) 及びヤマハ発動機(株) (YAMAHA) の合計 8 社の日本企業が共同出展した。

JBPI ブースの位置する A1 ホールは、見本市会場の表玄関である西入口に面しており、展示会開始直後から来場者の往来が頻繁であった。去年までの B2 ホールがヘルメット、サングラス等の付属品の出展者が多く、午後には人の流れが多くなるのと対照的であった。当ブースは本年展示ホールが移ったものの、ペダル、ギヤクランク、ハンドルバー、ステム、ブレーキ、チューブ及び泥よけ等、日本の高品質な自転車部品等が集まる「JAPAN」ブースとして来場者に認知されている。更に本年は BOMA がカーボン製の完成車や部品を展示し、GROWTAC はホームトレーナーを出展・実演する等して注目を集め、例年同様、当ブースの日本製品は来場者の注目を集め、各共同出展者の小間では活発な商談等も行われた。



JBPI 共同出展ブース

図表 2 : 2016 年ユーロバイク展共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所 U R L	電話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 所沢市糞谷 1738 http://www.mkspedal.com	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1 http://www.suginoltd.co.jp	0742-62-5311 0742-62-5320	チェーンリング、 クランク等
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 門真市東江端町 7-25 http://www.diacompe.co.jp	072-884-8020 072-884-8030	ヘッドセット、 ブレーキ等
(株)本所工研 HONJO	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	泥よけ
(株)ハチスカ HACHISUKA	〒444-2111 岡崎市西阿知和町御用田 1-1 http://www.hachisuka.co.jp	0564-45-7171 0564-45-6262	パンクしないチュー ブ
(株)ASK TRADING BOMA	〒314-0018 三郷市早稲田 4-10-2 http://www.boma.jp	048-951-5820 048-951-5821	自転車、フレーム等
(株)グロータック GROWTAC	〒140-0013 東京都品川区南大井 6-5-11 3F http://www.growtac.com	03-6436-8621 03-6436-8622	ホームトレーナー
ヤマハ発動機(株) YAMAHA	〒438-8501 磐田市新貝 2500	0538-32-1963 0538-37-4475	EPAC 用モーター

6. 過渡期を迎えたのか

本年は PON グループに属するドイツ大手ブランドのダービーサイクル（ラレー、カルクホフ、ユニベガ及びフォーカス）が出展を取りやめた。同じく PON グループのサーベロやドイツのキューブ、イタリアのピナレロ、スペインのオルベア及びポーランドのクロス等、スポーツ車ブランドも同展より撤退した。ここ数年、スペシャライズド、トレック等の米国大手ブランドの撤退が続いたものの同展への影響は限定的と見られていた。毎年、展示会場では次は何処が出展を取りやめるのか噂となっていたが、本年の展示会後、早速、ドイツの欧州最大手の購買組織、二輪車共同購入組合 (ZEG) が来年の出展取止めを発表した。ZEG は自社スポーツ車ブランドのブルズの他、近年買収したケトラーとヘラクレスの独ブランドを出展していたが、地元ドイツの有力ブランドが展示会から次々と姿を消すことは寂しさを禁じ得ない。なお、展示会から撤退した各メーカーは、各社独自の内覧会や商談会を行い、顧客の囲い込みを図る戦略のようである。因みに ZEG は本年初夏、地元ケルン見本市会場にて傘下会員約 1000 名の小売店を招き大規模な内覧会を開催している。



ZEGのスポーツ車ブランド・BULLSブースの様子



ヘラクレス

ケトラー

ビジネスデー最終日(3日目)に主催者に確認した段階では、来年も5日間開催予定と聞いた。しかしながら、展示会終了後の最終報告では、来年は一般公開日を1日とし、会期は4日間に戻ることとなった。出展者の5日間出展へ負担が思ったより大きく、急きょ日程を変更したとも思われる。また、一般公開日を2日に倍増したにもかかわらず、思ったほど集客効果がなかったと判断したかもしれない。また、主催者公表の出展者コメントによると、今年は特に地元ドイツからのビジネス客が減ったとの意見も聞かれた。今回の5日開催の新しい試みは、開催25周年の記念行事として終わりを迎えようである。

ここ数年、成長を続けてきたユーロバイク展ではあるが、来場者は2年続けて減少している。日程をすぐに4日に戻す柔軟な対応や、自分たちに不利な数値でも直ちに公表する主催者の姿勢は評価に値するが、見本市会場の設備上、現在の展示面積は限界を迎えており、結果、今年の出展者数は前年の横ばいであった。本展示会はこのまま頭打ちとなり減退傾向に入るのかを現状は不透明であるが、日程変更による迷走、独大手メーカーも続々と撤退を始める等、同展もいよいよ過渡期を迎えたのかもしれないが、今のところ、他に代わるものが欧州地域では見当たらないのもまた事実である。

次回 EUROBIKE2017 は 2017 年 8 月 30 日(水)～9 月 2 日(土)の 4 日間の開催予定である。

以上

※写真はすべて筆者撮影(同展取材登録済)